

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	長崎大学	整理番号	O05
プログラム名称	熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム		
プログラム責任者	下川 功	プログラムコーディネーター	森田 公一

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

<p>[総括評価]</p> <p>計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p>
<p>[コメント]</p> <p>リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、国内外の外部有識者による指導・提案も取り入れて改善・工夫を重ねた結果、熱帯病等の制御に資する政策立案スキルの強化を目的とした課題解決型授業やロールモデルの提示、海外拠点や国際機関等における感染症対策 On-the-job トレーニング等の実践的な教育体制の確立、講義・実習の完全英語化など、非常に充実したプログラムとなっており評価できる。ただし、日本人学生の応募が少ない点は、今後の改善が望まれる。</p> <p>修了者の成長とキャリアパスの構築については、メンターの配置、キャリア支援室の設置、修了者による同窓会の設立やそれを踏まえたネットワークの構築、さらには課題であった産業界との連携の強化など、評価すべき点は多い。一方、少なくとも平成 30 年 10 月現在では修了者の多くがアカデミアに就職しており、今後は国際機関や産業界への就職を促進する相互交流機会をより高めるなどの施策が期待される。</p> <p>事業の定着・発展については、学長の指揮の下で、本プログラムの成果が「熱帯医学・グローバルヘルス研究科」の博士課程の設置、ロンドン大学とのジョイント・ディグリーの開始、また、全学での教育改革につながるなど評価できる。しかしながら、プログラムの定着・発展に資する財源確保に関して不確定な要素があり、国内外の企業等との連携を深めるなど今後一層の努力が求められる。また、修了者とのネットワークを更に充実させることにより、本プログラムの成果をより一層大学に定着・発展させていくことが期待される。</p>